



脚本 にいの ゆうひこ  
絵 しもかわら ゆみ  
製作 公益社団法人「小さな親切」運動本部

## つなみのひ

ここは、海の近くの静かな村。

たくさんのどうぶつたちが、  
仲良く、のんびりと暮らしています。

—— ゆっくりとぬく ——

◆子どもたちから  
「海だ!」「家がある」「学校だよ!」  
など景色に対する反応があつた場合は  
「そっだね、海」と  
指さして肯定し、  
親しみを持てるよ  
うにしましょう。

この紙芝居は、子どもたちが親しみやすいよう動物を登場人物にしていますが、実際には被災地の方々にお話をうかがい、本当にあったことを取り入れて製作しました。  
東日本大震災の状況を子どもたちに知ってもらい、被災した方に思いを巡らせてもらうこと、防災の意識を高めてもらうこと、またもし自分たちが被災した時に、どのように行動すべきか、ということを考えてもらえればと思っております。



さあ〜ん さあ〜ん

青くて、ひろ〜い海。

海岸で、コタローとポンタは仲良〜く  
魚つりをしていました。

と、その時です。

突然！

グラッ グラッ グラグラグラ〜

コタロー 「うわー！ じしんだあ」

ふたりはじしんに投げ出されて、  
よつんばいになりながら、手をにぎりあいました。

グラ！グラ！グラ！

ふたり 「きゃ〜」

じしんはすいぶん長いことゆれつづけ、  
ようやくおさまりました。

2/3引きぬく

コタロー 「ねえ、あれはなに？」

コタローが海を見ると  
海がたか〜くもりあがって壁のようになっています。  
海は真っ黒です。

ぬく

◆紙芝居を大きく、  
激しくゆらして



ポ<sup>o</sup>ンタ

「こっちへむかってくるよ。逃げろ」  
二人はかけだしました。

かべの正体は、つなみでした。

さっきのじしんでつなみが起きたのです。

海がもり上がってできた大きなかべは、みるみるうちに近づいてきます。

[illegible]

◆じょじょう  
大きな音で

つなみが、二人におそいかかりました。

[illegible]

ふたり

「うわぁぁぁ」

ザザザザザザザザザザザン

◆波の音がじよじよに  
消えていくように

ゆつくりぬく



気がつくと「タローは、  
高い松の木にしがみついていた。  
そして、だいじなことに気付きました。  
ポンタがいません。」

「タロー」「ポンター、ポンター」

でも、返事はありません。

「タローはこわくてびるびるびるえていました。」

(少し間をおく)

「「タロー…」と呼ぶ声が聞こえました。  
それは漁師のおじさんでした。」

いつも「タロー」たちにつりを教えてくれるおじさんです。

おじさん 「「タロー 早く降りてい。海のそばは危ないぞ」

「タロー 「おじさん、ポンタがない。  
いっしょに魚をつっていたんだ」

おじさんはあたりを見回してから言いました。

おじさん 「またつなみが来るかもしれん。ポンタのことは  
おじさんにまかせて、早く小学校へにげよう」





小学校までの景色は、朝とはすっかりちがっていました。家も橋も、きれいなお花畑もなにもかも波に流されていたのです。

おじさん 「うーん。これは大変なことになったぞ。

みんな無事ならいいんだが…」

おじさんの背中<sup>せなか</sup>で、コタローはふるえていました。コタローが知っている村は、どこにもありません。

ただ、ひとつだけ。おかの上にある小学校は無事<sup>ふじ</sup>でした。

ぬきながら

そこにはおおぜいの村人たちが集まっていました。

みんな元気がありません。

ぬく

◆つばやぐら



ウシのおばさん 「痛いよ。痛いよ。早くみておくれよ」

ヤギのおばさん 「なんだって！ うちの子が先だよ!!」

たおれこんでいる「ケッ」おばさん。  
うつむいているおじいさん。  
ずっと泣き続けているミューちゃん。

みんなをちりょうするお医者さんと看護師さんも  
大変です。

その時です。

—— ちつとぬく ——



お母さん 「コタローちゃん!」

お母さんがかけ寄<sup>よ</sup>ってきて「コタローをだきしめました。

お母さん 「ああ、よかった。無事<sup>むじ</sup>だったのね」

温かい胸<sup>むね</sup>の中で、「コタローは初めて泣<sup>な</sup>き出しました。

「コタロー ポンタが、いなくなっちゃったんだ」

お母さんは、いっそう強くだきしめました。

お母さん 「お父さんもね。ど<sup>どこ</sup>に<sup>どこ</sup>にいるのかわからないの」

「コタロー え、お父さんがいないの?」

お母さん 「でも、きっとみんなみつかる」

ポンタやお父さんだけではなく、  
たくさんの人たちが行方不明<sup>ゆくえふめい</sup>になりました。  
村人たちはそうさく隊<sup>たい</sup>を作<sup>つく</sup>ってさがしていますが、  
まだなんの知らせもありません。

—— 1 / 2 ぬく ——

学校には食べるものがありませんでしたが、  
だんだん、いろいろな品物が届<sup>とど</sup>くようになりました。

(係<sup>けい</sup>の人の声) 「みんなに配<sup>くば</sup>るから、順番<sup>じゅんばん</sup>に並<sup>なら</sup>んでおくれ」

その声で、みんながいっせいに集まりました。  
「コタローもおにぎりをもらう列<sup>なら</sup>に並びました。

すると突然<sup>とつぜん</sup>、大きな声がしました。

—— ぬく ——

◆ がく然として

◆ 強い意志を感じ  
させて



ケンキチ

「ひとりでめするなー」

ケンキチおじさんが、シマおじさんをにらんでいます。

シマおじさんはおにぎりを四つもかかえ、  
にらみ返していました。

コタローはこわくなり、立ちすくんでしまいました。

コタローが知っているシマおじさんは、小学校の  
前の道をそうじしてくれる親切なおじさんなのです。

ケンキチおじさんだって、毎朝、声をかけてくれる  
優しいおじさんです。

だれもがいつもとちがうみたいです。

みんなは、二人のにらみ合いをだまって見守って  
いました。

大勢いるのに、体育館はしーんと静まりかえった  
ままです。

ぬく

◆はつじろ口調で

\*シマおじさんは  
「アナグマ」です。





♪ピッピ ピョロロ ピロピロピッピ  
ピッピ ピョロロ ピロピロピッピ

突然、笛の音が鳴りひびきました。

村一番の笛名人のピッコロが、横笛を吹いています。

♪ピッピ ピョロロ ピロピロピッピ

それは村祭りにみんなで踊る『動物村音頭』でした。

♪ポンポン ポンポポン ポンポンポッポポン

「じゃあ、私も」

「あ、ソレンソレ」

みんなお腹をたたいたり、歌ったり。

♪さあさあ、みんなでイネをかれ。

さあさあ、みんなで道作れ。

力を合わせりや、夕には終わる。

そしたら、みんなでおどろうや。

いつのまにか、その場にいた全員が手びょうしを取っていました。

「タローもつられて手びょうしをしました。」

◆すっとんきょうな  
ほど、リズムカル  
な感じで

◆明るい節回しで  
歌いましょう。  
例えば「村祭り」  
「茶摘」「背くらべ」  
など、童謡の替え歌  
でも良いでしょう。  
その場合曲に合わ  
せ歌詞を長くした  
り入れ替えてもか  
まいません。



歌が終わると、村長さんが言いました。

村長さん  
「みんな苦しいじゃろうが、今はすることがたくさんある。助け合って自分たちにできることをしよう。そうすれば、行方不明の者たちもきっとみつかる」

シマおじさんは、おにぎりを返しました。

シマ  
「すまん。行方<sup>ゆくえ</sup>の分からない子どもたちの分もと思って、つい<sup>つい</sup>おすぎ<sup>おすぎ</sup>てしまった」

ケンキチ  
「いや、私もいきなり<sup>むだじ</sup>どなってすまなかった」

「タローは、つなみがあってからはいじめて元気が  
でてきました。」

ぬく



夜が明けました。

コタロー 「おはようございますー。」

みんなが朝のあいさつをします。

それが、みんなで決めたルールです。

あいさつをすれば、気持ちが通じ合い、  
勇気や元気がでてくるから。

ルールはもうひとつあります。

みんなで役割分担やくわりぶんたんをするのです。

トイレのおそうじ、小さな子どもの相手、薬や食料じやくしきりょうも  
集めなくてはなりません。

コタローも一生けん命お手伝いてつだいをしました。  
みんなの様子を聞いて回るのです。

コタロー 「しろくまさんは、お水が欲しい  
ねずみさんは、毛布もふが欲しい」

そして仕事をしながら、お父さんとポンタのことを  
考えていました。

◆元気づけ

◆それぞれのシーン  
を一つ一つ描きす  
なっていくのもよい。



カモメのそうさく隊<sup>たい</sup>から、うれしい知らせがありました。  
 行方不明<sup>ゆくえふめい</sup>の仲間<sup>なかま</sup>がたくさん、沖合<sup>おきあ</sup>いのまんまる島に  
 流れ着いたという知らせです。

ようやくみつかった仲間をむかえに行くため  
 みんなは協力<sup>きょうりき</sup>して、大きな大きなイカダをつくりました。

トントントン！ カンカンカン！

くぎを打つ音も、なんだかうれしそうにきこえます。

トントントン！ カンカンカン！

イカダができると、漁師<sup>りょうし</sup>のおじさんが船頭<sup>せんどう</sup>さんになって、  
 のりこみました。

おおぜいの仲間<sup>なかま</sup>が助けを待っています。

おじさん 「さあ、まんまる島に向けて出発進行！」

(少し間をおく)

ポンタも、「タローのお父さんも無事<sup>ぶじ</sup>でした。

「タロー 「ポンタ、よかった！

お父さん、心配したよ！」

「タローはとびはねて喜びました。

ぬく

◆明るく、勢いよく

◆リズムよく

◆子どもたちを見渡  
 して語りかけるよう  
 に

\*左上の動物は  
 「ニホンカモシカ」  
 です。





海はつなみがくる前と同じおだやかな海にもどりました。

家も、畑も、なにかもなくなってしまったけれど、  
助かった仲間<sup>なかま</sup>たちは村を元にもどそうとがんばっています。

「タローとポンタは、ちょっと海がこわくなりました。

でも、やっぱり魚つりは大好き<sup>す</sup>！」

「はやく、海で魚つりがしたいね」っていつも話を  
しています。

おしまい

◆ゆっくりと子ども  
たちに語りかけま  
しょう。

\*実際に「怖くて趣  
味のつりはしなくな  
った」との地元の声  
も聞かれます。  
「すばいのに」「等  
の反応があった際には  
人々の心に残された  
ものについて考えら  
れるよう声かけを  
しましょう。